

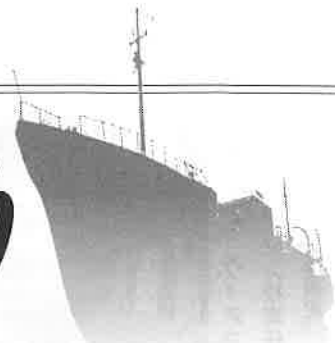
2013.09.01
No.377

(9・10月号)

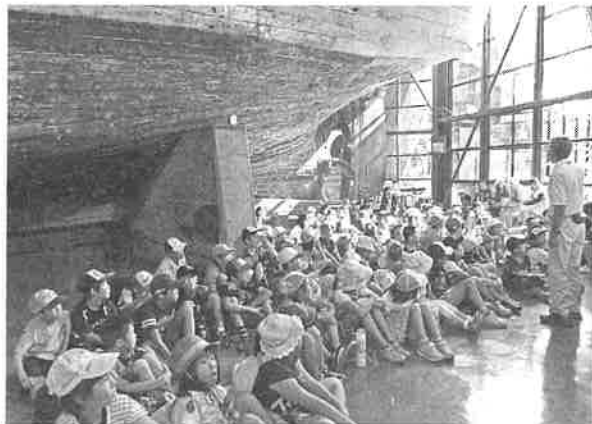
福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



夏休み期間中にはさまざまなグループが来館し、自由研究や課題のため、親子連れの訪問も連日ありました。(写真左上)保護者主催の遠足(つくばみらい市)で一五〇人余が見学、(右上)興味深そうに展示写真に見入る保育園児、(右下)福島の小学生たちも熱心に学習しました。



ビキニ事件60年にむけて

公益財団法人第五福竜丸平和協会

代表理事 川崎昭一郎

明年三月一日は、アメリカのビキニ水爆実験により第五福竜丸が被災してから六〇年になります。

これを記念して、この秋から来年に向けて、大きなプロジェクトを立ち上げることが各方面から期待されています。

福島原発事故の深刻さがいま次々に明らかになっていますが、放射能被害の問題に正面から正しく取り上げ取り組むことは人類にとってゆるがせにできない課題です。

放射能被害は核兵器特有の問題でもありません。半世紀以上に及ぶ核兵器開発競争の結果、膨大な核兵器が蓄積・貯蔵されましたが、同時にその過程で世界の各地で人々の間にもたらされた核被害の実態をさらに解明することも、この機会に是非行わなければなりません。

とりわけ日本においては、今も続く広島・長崎原爆の後

遺、六〇年前のビキニ事件および今日の福島を経て、世界に率先しての対応が官民を問わず求められています。

この記念プロジェクトにおいては、継続的な研究会、シンポジウムの開催、出版・広報活動など、一記念集會にとどまらず、特に新しい若い人々の創意と工夫を取り入れていくことが重要です。

第五福竜丸展示館では、福竜丸の船体を中心にして、常設展示の充実と特別展開催、新しい図録の刊行などにより来館者にいっそう教育的、印象的に訴えていきたいと考えます。

第五福竜丸平和協会と展示館は多くのサポーターと共に、六〇年以後に向けて更に大きな飛躍とうねりを生み出していく所存です。第五福竜丸から平和を発信するため、皆さんの一層のお力添えをお願いします。

グローバル・フォールアウトを考える

樋口敏広

核実験の問題には九〇年代の終わりごろから関心がありました。元々は軍縮交渉や軍事戦略というよく知られた側面から研究を進めていました。私が地球環境問題という側面に気がついたのは、〇五年に博士号取得のためにジョージタウン大学に入学した時です。そこでは環境史という新たな歴史研究が盛んで、『20世紀環境史』で著名なジョン・マクニール先生に触発され、核実験問題を単に安全保障問題として研究するのではなく、「人類史上初の地球環境



78年生まれ。ウイスコンシン州立大学マディソン校専任講師。地球環境史・科学技術史。

問題」という視点から改めて捉え直そうと考えました。

核実験が始まった当初は、実験場周辺の比較的強い放射能汚染が問題とされ、地球全体に放出された放射性降下物（グローバル・フォールアウト）の危険について認識はなかった。当時の核保有国アメリカ、イギリス、ソ連の関心は核戦争での生き残りに集中し、核使用時の局所的な汚染と除染の研究を進めていました。実際には最初の原爆実験（トリニティ）でも二キロも離れたコダックの工場のフィルムが感光しましたが、このような地球全体に与える影響を問題視していなかったのです。

地球大の汚染への認識

グローバル・フォールアウトが社会問題化した歴史的契機は、ビキニ水爆実験です。いまでは米軍当局が当時全世界で測定したデータも公開されていますが、水爆の登場によって放射性降下物が地球全

体に降り注ぐようになった。それがなぜ「汚染」として問題視されるようになったのか、という本質的な問いを考えてみたわけです。

科学者はよく客観的にこれだけ汚染がありますというけれど、人により「汚染」の定義は全く異なる。天然に存在しない核種があれば「汚染」と考える人もいれば、自然放射線の変化量と比べて評価する人もいる。基準値や許容量という観点から考える人や、除去のコストと人への影響をハカリに掛けて考える人など、一口に「汚染」といっても実に様々な定義があるのです。

こうした混乱の原因は、グローバル・フォールアウトの性質の曖昧さにあります。急性症状が出るような高線量被ばくであれば危険は誰にも明白ですが、地球全体に薄く広がった放射線降下物は、場所によって線量も大きく異なり、低い線量でかつ放射線は見えませんので、必ずしも危険視されるとは限らないわけです。

例えばアメリカは、水爆マイク（五二年）直後にグローバル・フォールアウトに注目

し、「サンシャイン計画」と呼ばれる秘密研究を発足させましたが、その関心は核実験による汚染の影響ではなく、そのデータを基に何発の核兵器によって人類全体が滅びるかを予測することにあります。

興味深いことは、ビキニ事件によってマグロや雨の汚染が明らかになると、検査のために定められた基準値によりその多くが「汚染」されていると判定されたことです。つまり、測定と判定基準の相互作用により、それまで曖昧であったが故に無視されてきたグローバル・フォールアウトが初めて「汚染」として見えるようになったのです。これを問題視する人びとの様々な努力によって、それが危険な「汚染」であることが常識とされたといえます。

核保有国は、グローバル・フォールアウトの危険は「無視できるほど小さい」と主張し、「自然放射線の影響や交通事故や喫煙といった日々の危険より小さいから問題ない」との主張もある。なんといつでもアメリカは、「共産主義の脅威」から自国のみならず全

世界を救うためには核抑止に伴う多少の危険はやむなしと主張していましたが、科学者や知識人もこれを無批判に受け入れた面があります。

しかし、ブラボー爆発をきっかけにグローバル・フォールアウトが「見える」ようになる、地球全体への影響と倫理を慎重に考える人々が次第にそれを問題視するようになったのです。

声をあげた市民たち

水爆実験による放射能汚染を最初に問題視したのは女性、特に主婦でした。「夫と子どものために」という当時の女性観の影響もあり、低線量被ばくの子どもに対する影響への不安が高まり、科学者などを動かしました。また地球全体に放射性降下物が降り注いだので、海産物、農作物、ミルクといった食べ物に消費者が不安を抱きました。そして米ソ対立に関係のない世界中の人々と将来の世代が例えわずかでも被ばくすることも問題視されました。

それまでの被ばく問題とは、放射線を取り扱う労働者（3めん下につづく）



私と原水爆禁止運動とのかわりは、敗戦後、早稲田大学で学生自治会をつくり活動していたことに始まります。一九五〇年のストックホルム・アピールの署名運動ですね。学生や教員とともにとりくみました。朝鮮戦争がおこりレッドパージ闘争で逮捕・除籍処分となりました。

第五福竜丸 保存を振り返って

吉田嘉清さんに聞く

編集部

が高揚し、五五年の第一回原水爆禁止世界大会が開かれます。九月には署名運動全国協議会と世界大会準備委員会が統合して日本原水協が設立され、事務主任として参加することになりました。

被爆者の訴えに揺さぶられ振り返ってみますと、広島・

長崎の原爆被害や被爆者の苦しい実態は、占領下では国民の目から隠されてきました。

五二年の講和発効から被爆の惨状が次第に国民にも知られていきましたが、いつきに浸透させたのは、ビキニ事件でした。死の灰、原子マグロや放射能雨は国民生活に不安を広げ、原水爆禁止の世論と運動が急速に高まりました。こうした世論を引き継いで世界大会が広島で開かれた。被爆者の切実な訴えを聞いて本当に胸に響いた。何とかしなければという思いが大会参加者全体に広がりました。

ビキニ事件の意義

ビキニ事件とは、広島・長崎を広く内外に伝え、被爆者の存在を知らせ、核と放射能の恐ろしさを知らせました。

一方、福竜丸の船体は政府

が引取り水産大学の練習船、「はやぶさ丸」となり、忘れられてしまった。しかし、夢の島に捨てられていると江東区の方や都の港湾労働者が知らせてくれた。私は当時、日本原水協の事務局長でしたが、運動のなかで「なんとかしなければ」という意見がでてきます。それは、被爆国民の原水爆反対の世論の広がりの反映でもありましたね。

保存への道のり

六八年三月一日、静岡で開かれていた3・1ビキニデーの集会で江東区の参加者から「船が夢の島にある」という報告があり、「保存できないのか」との声があがります。ついで一〇日には朝日新聞に武藤宏

一さんの「沈めてよいか第五福竜丸」の投書が載り、反響が広がるなかで一九日に船体を三〇万円で買い取りました。平和委員会の運動に熱心だった大沢三郎さん名義で、田沼肇さんも同行し、業者から買い取った。銀座の数寄屋橋交差点で第五福竜丸保存の街頭での訴えも始まります。

原水爆禁止運動は分裂していったわけですが、第五福竜丸

の保存は幅広く取り組まなければできない、という気運が生まれたのです。その中心を担われた一人が中野好夫さん（英文学者・評論家）でした。事件当時、放射能汚染に取り組んだ三宅泰雄さんや檜山義夫さんなど著名な科学者や宗教者、原水爆禁止運動の代表、都知事的美濃部亮吉さんも「個人」として肩書き抜きでまともりました。「福竜丸保存のよびかけ」が出され、各界幅広い百名近い賛同者が名を連ねた。私は、総評の岩垂寿喜男さんと「個人」の世話人となりました。

七三年には船の保存と展示施設をめざす財団法人第五福竜丸平和協会が東京都の設立許可によりつくられます。広田重道さんが専務理事となりました。財団は船体を登記し、都の意向を受けて船体を都に寄贈し展示施設、第五福竜丸展示館が建設されることになったのです。

これからも遺された福竜丸をつうじて伝えつづけてほしいと願います。（よしだよしきよ／協会顧問、元日本原水協代表理事）

の問題でした。それが地球全体の汚染となると、「核戦争に勝者なし」という概念も出てくるわけです。放射能汚染により、相手（敵）も負かすが自分も被ばくする、という状況に直面し、米ソ対立にも変化の兆しがでてくるのです。

核実験、原水爆に反対する市民の声が高まるのもこの時期です。政治から排除されがちな女性が汚染問題により母親として反核で声を上げることもできた。汚染が人類全体に及ぼす影響により、シユバイツァーなどのヒューマニストも倫理的な観点から反核の立場を明らかにしました。私は、グローバル・フォールアウトという史上初の地球環境問題が原子力の軍事・平和利用の両方に与えた影響にも大いに関心があります。

ビキニ事件という人類史上画期的な出来事を改めて振り返ることで、地球環境史的な視点に立って現在の核兵器や原発の問題の本質を理解し、歴史の教訓を生かして創造的に解決できるかどうかを問われていると思います。（ひぐちとしひろ）

企画展
ビキニ事件 60年
 に向けて
 — 第五福竜丸の被災
 と人びとのくらし —
 開催中

八月一八日より今年度第一回の企画展を開催しています。今回は、第五福竜丸平和協会が収集してきたビキニ事件当時の各地の新聞（五四年の三月から九月まで）のなかから、マグロ騒動や放射能雨、飲料水や農作物への影響などの新聞切抜を一九枚のパネルに構成し展示しています。

*



大和タイムス 1954年4月20日

断されたという記事が掲載されています。福竜丸の母港、焼津を抱える静岡の新聞からは「どうか魚を食べてくれ」という漁師さんの悲痛な思いが聞こえてきます。また大阪の富田林市では出荷された福竜丸のマグロを多くの人が食べてしまったと大騒ぎになった様子があります。

こうした放射能の被害に対して、京都では放射能雨がよい宣伝となり雨具が人気でよく売れているという記事が掲載されており、被害だけに終わらせない当時の世相の一面もうかがえます。沖繩の新聞には「天水の常用に警告」という記事が掲載された一週間後に「雨水にも放射能なし」という記事が出ています。実はこの背景には、当時の沖繩が米国の施政権下にあり、放射能の測定は米軍しかできなかったことから、米軍に委嘱して検査をおこなったこと、汚染はないとの検査結果が出て以降は、一切の報道もされなくなるといった状況がありました。

各地の新聞を見比べると、ビキニ事件が当時の人びとの生活にどんな影響を与えたのかが見えてきます。企画展は一〇月二八日までです。

企画展オープニング記念
 想い込めて歌声ひびく

栃木県立宇都宮中央女子高等学校合唱部によるコンサートが八月一八日午後、展示館内で開かれました。



合唱指揮は、吉岡訓子さん
 ピアノ伴奏は、佐竹優子さん

同校合唱部は、全日本合唱コンクールで金賞、銀賞を受賞した経験をもちます。二〇一二年には東日本大震災と原発事故を題材に「鎮魂歌―明日―風の中の挨拶 明日」(佐々木幹郎作詩、西村朗作曲)を委嘱創作し、仙台での瓦礫撤去のボランティアにとりくむなどの活動もこなってきました。

◆福竜丸・久保山愛吉すず

薔薇の日のコンサート
 ・10月12日(土曜日) 17時開演
 ・出演 飯原道代(朗読と歌)
 愛染恭介(ギター)

演目『ここが家だーベン・シャーン』の第五福竜丸ほか詩とうたのプログラム

*お問い合わせは第五福竜丸展示館まで

今回のプログラムは、第五福竜丸と向き合いながら演奏することからつくられ、「君死にたもうことなかれ」(与謝野晶子詩、信長貴富作曲、委嘱作品)や「生きる」(谷川俊太郎作詩、三善晃作曲)などで構成され、素晴らしい歌声をひびかせました。部長の野口まゆさんはプログラム・ノートに「現実を知り、向き合って生きていくこ

資料紹介③

俊鷓丸
関連資料

第五福竜丸をはじめとする
たくさん漁船から放射能
汚染魚がみつかり、放射能へ
の不安が高まるなかで、農林
省水産庁(当時)は、ビキニ
海域の総合調査を行うことと
し、科学調査船俊鷓丸(しゅ
んこつまる)を派遣しました。
科学者二二名と報道関係九名
を乗せ五月一五日に東京・竹
芝棧橋を出航し五〇日余りの
調査を行いました。

この調査の詳細は報道(朝
日・毎日・読売・日経・産経・
中日・共同・NHK)された
ほか、記録映画「俊鷓丸の記
録」(新理研映画)、谷口利雄・
駒野鎌吉著「われら水爆の海
へ」(日本繊維出版)にまと
められています。

協会では上記資料のほか

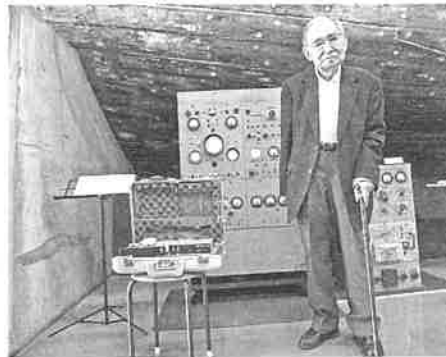
『ビキニ海域における放射能
影響調査報告(第一集)』(水
産庁調査研究部 一九五五年
三月)『同 第二集』(一九五
年一月)を所蔵しています。
第一集は、調査の方法とデ
ータが中心で、海水・雨水・
生物への放射能の影響につ
いて、また除染の方法につ
いての問題提起がなされてい
ます。

第二集ではさらに、採集資
料とデータの付帯実験結果が
報告されおり、生化学、組織
学などの分野でも研究と分析
がなされたことがわかります。
また現在でも継続されている
海水の調査では「海水の放射
能は無視しえるほど少ないと
いう米原子力委員会の発表に
反し、広範な海域に強い放射
能が検出された」ことが報告
され、警鐘を鳴らしています。
第二次俊鷓丸調査(一九五六
年五月二六日～六月三〇日)
については、浦久保五郎・河
端俊治ほか著『第二次俊鷓丸
ビキニ水爆調査の記録』(新
日本出版社)、水産庁調査研究
部『1956年核爆発実験影響調
査報告』(一九五六年九月)に
まとめられています。

また第二次調査をうけた

『核爆発実験影響調査報告書
(陸上検査の部)』(厚生省公
衆衛生局)を寺田喜久雄氏よ
りご寄贈受けました。

調査中の写真記録を、調査
団員の亀田和久氏、三好寿氏、
八木益男氏ご遺族より寄贈を
受けました。今後企画展等で
随時紹介していきます。



※俊鷓丸による海洋調査、放
射能雨の測定と分析などに
挑んだ科学者たちの足跡が
番組になります。NHK(E
テレ)九月二八日(土) 23
時よりETV特集「海の放
射能汚染に立ち向った日本
人」ビキニ事件と俊鷓丸。
写真は岡野眞治さん(当時・
科学研究所)と自作のシン
チレーションカウンター。

この夏も
各地で福竜丸展

第五福竜丸平和協会では、
第五福竜丸の被災をはじめ、
マーシャル諸島の人びとの被
害、船の保存などがわかるパ
ネルセットの貸出をおこなっ
ていますが、今夏も多くの中
治体や市民グループに活用さ
れました。

平和のための戦争展(焼津
市・埼玉)をはじめ、西宮市、
下関市、立川市、鎌倉市、東
都生協のとりくみでは、二〇
枚セットが展示されました。
これは展示館の常設展示とは
ほぼ同じ内容となっております。
「水爆プラボーとの遭遇」「焼津



への帰港と闘病」「原子マ
グロ騒動」「放射能の雨」「第五
福竜丸以外の被災船」「ラッ
セルIIアインシュタイン宣
言」の写真で構成されていま
す。このセットは秋以降、小
中学校での展示や文化祭でも
活用される予定です。

日本生活協同組合連合会
では春のキックオフ集会につ
づき、「ピースアクションinピ
ロシマ虹のひろば」で、マー
シャル諸島関連パネルが展示
されました。また埼玉県杉
戸町の平和企画展では、昨年度
の展示館特別展で製作された
「年表・マーシャルは、いま」
が展示され、ロングラップの
人びとの苦悩の歴史と被ばく
者の訴えが反響をよびました
(上・写真)。



連載②

晴れた日に 雨の日に

—第五福竜丸とともに—

山村茂雄



な討議がよびかけられるようになりました。討議の参考・学習資料として、「討議資料」が発行されることになりました。第三回大会のものは専門性と資料性は高いものでしたが、新書判で二冊、大衆的に運用するには至りませんでした。

第四回大会「討議資料」は、A5判40ページ前後のパンフレットとして、写真・漫画なども挿入、大会議題に対応し分冊で発行されました。

第四回世界大会の議題は次のようになっています。

- ・ 原水爆実験即時全面停止と核武装禁止・民主主義擁護のために—日本大会議題
- ・ 第一議題—原水爆事件の即時全面停止、原水爆禁止と軍備縮小
- ・ 第二議題—日本の核武装禁止について
- ・ 第三議題—原子戦争準備と国民生活（経済・文化教育）
- ・ 第四議題—放射能害とその対策
- ・ 第五議題—原水爆被害の実相と被害者救援について
- ・ 第六議題—原水爆禁止と平

平和行進



1966年3・1平和行進には、田沼さん、服部さんも参加。久保山さんの遺影を持つ小笠原英三郎静岡平和委員長、佐久間澄、畑中政春、熊倉啓安、小林徹、各氏の顔も見える。

和運動

それぞれに議案骨子が付されています。第四議題には科学者の役割、原子力平和利用などの項目、第六議題には運動の沈滞、過去の運動の成果と欠陥、などの項目があげられています。

大会初日、議題に沿って基調報告があり二日目に分科会で討議が行われました。第四議題の基調報告者は坂田昌一さんがつとめています。

「討議資料」の表題は第一分冊は「原水爆死か、平和か」、第二は「核武装と軍縮」、第三は「原子戦争準備と国民生活」、第四は「死の灰の谷間日本」（写真）、この分冊は議題第四と第五に対応し、第五は「原水爆禁止運動の問題点と将来の方向」でした。

執筆には、日本原水協役員、専門家、活動家、ジャーナリストなどがあたりました。頒価は四〇円でした。

第四分冊「死の灰の谷間日本」

の制作過程は、服部さんの思い出とともに前号で紹介しました。併せてNGO被爆問題国際シンポジウムの事務局代表としての仕事も記しましたが、同じく事務局代表として名前が出ていた田沼肇さんも第四回大会「討議資料」の第三分冊「原子戦争準備と国民生活」の執筆に参加しています。『田沼肇全活動』（二〇一二年・日本評論社刊）にも書かせてもらったことですが、木村禧八郎さん、小椋広勝さんが「若手」の執筆者として田沼さんを推薦された

のです。当時、田沼さんは大原社会問題研究所所員、三二歳でした。

「一九五四年、第五福竜丸のビキニ水爆被災事件が起こったなかで、私も原水爆禁止の課題へ大きく目を開かれた。——科学者としての私がかような活動をしたかという、広島・長崎の被爆者の実態調査、社会科学的原因の究明、被爆の実相を社会的にアピールすることなどだった。これは一九九二年法政大学での田沼肇最終講義メモの一節です。

六一年、日本原水協専門委員会編『原水爆被害白書—かくされた真実』（日本評論新社）が刊行されます。第四回世界大会第四分科会（第四議題）での提案を出発点に、約三年間にわたる作業が結実したものでした。広島佐久間澄、庄野直美、石井金一郎の各氏や、山手茂、伊東壮氏などが参加し、田沼さんは執筆に合わせ吉田嘉清氏と編集責任者の一人でした。

*

『田沼肇全仕事』には、「被（アめん下につづく）」

船を みつめた瞳 来館者の感想より

今夏も全国からたくさんの方が見学を訪れ、来館者ノートや館内アンケートに言葉のこしていただきました。その一部を紹介します。

◇小さい頃に来たことがありましたが、今高校生になって戦争のことを知った後に再び来てみると、違った視点から考えることができました。また来たいと思います。(埼玉・17歳)

◇三宅泰雄さんの授業を受けた者です。木造の第五福竜丸をみて船大工のすごさを知りました。(香川・73歳)

◇もつと宣伝したほうがいいよ！(アメリカ・20歳)

◇歴史を学んで、これからの福島のことを考えなければいけませんね。(神奈川・42歳)

◇吹奏楽で「ラッキードラゴ

ン」第五福竜丸の記憶」を演奏します。この事件で傷ついた方のことを祈りながら演奏します。(東京・14歳)

◇小学生の頃、社会科学見学で来て以来、何度もきています。日本人にも世界にも、もつと事実を伝えていなくてはと思います。(東京・36歳)

◇ずっと気になっていた第五福竜丸。敗戦記念日に見ようと決意して来ました。不都合な事実を隠すというの

は犯罪です。(東京・58歳)

◇福島のことを思うと胸が痛みます。この船はいろいろなことを思い出させます。(群馬・50歳)

◇第五福竜丸のことはよく知っていましたが、現物を初めて見ました。原発が問題になってきているからこそ、この事件を思い出すべきだと思います。(愛知・68歳)

◇亡くなったひとの分も、これから頑張って生きたい。(東京・12歳)

◇何度もきています。何回きても驚くことがあります。(東京・13歳)

◇目をそむけないで、次の世代に伝えていくべきだと思います。(千葉・11歳)

◇僕は将来、有名な料理人になって、美味しい日本料理を作りたいので、新鮮な魚が必要なんです。そのためには核兵器は全部なくして、地球のすべての生きものが安全に生きていけたらいいなと思いました。(三重・14歳)



六分儀

68年目の夏

今年も世界中から多くの

人々が広島と長崎に集い核兵器のない世界を願い議論し声を上げました。核兵器の非人道性をめぐる議論はますます熱を帯び、グローバルスタン

ダードとなるやに思えます。

七月、ブッシュ政権時代の国防長官で戦略核や核軍縮交渉に携わったコリン・パウエル氏が核兵器は極めて酷い兵器であり軍事的に無用な存在であると語ったと報じられました(朝日新聞七月一日)。

米国の安全保障政策を担ってきたパウエル氏の発言が、非人道性をめぐる議論の追い風になるでしょうか。

一方、オバマ大統領は六月一九日ベルリンでの演説で、配備済みの戦略核兵器を一五〇発の削減目標から三分の一減らすことを提案して

爆問題」第五福竜丸保存運動」関係の諸文章・実践活動の記録が収録されています。

田沼さんは、第五福竜丸が夢の島で発見された一九六八年から保存運動に参加、船の所有権者からの譲渡交渉にもあたりました。平和協会設立後は理事に就任し、七六年の展示館開館に先立って刊行された平和協会編『ビキニ水爆被災資料集』(東大出版会)の約四年に及んだ編纂に中心にかかりました。

*

八七年、田沼さんは、パーキンソン症状をとまなう「進行性核上性麻痺」を発症します。治療法が未発見の神経難病です。身体機能が徐々に冒される日常と闘病の経過を田沼さんは「自身、障害者となって、社会の矛盾がもう一つ明らかになる窓が開かれた」と語りました。被爆の後遺とたたかう被爆者への、もう一つの連帯・実践の姿として今に残っています。二〇〇〇年八月九日死去。七四歳、まだ若い別れでした。(やまむらしげお/第五福竜丸平和協会顧問)

JCJ 賞受賞の高校生見学



相馬高校放送局のメンバー

8月11日、福島県相馬高校放送局の二人の高校生と引率の教員の4名が来館し熱心に見学しました。一行は日本ジャーナリスト会議 (JCJ) が優れたジャーナリズムの活動に贈る JCJ 賞の特別賞を受賞しその帰路立ち寄ったものです。同校放送局は、福島原発事故後の苦しみを高校生の視点で表現し放送番組と演劇を制作し各地で上演してきました。同賞の高校生の受賞は初めてで、「原発事故について自由に話し合うことがタブー視されつつあるときに、生徒たちは言わなければならないことをまっすぐに伝えた」(JCJ 事務局長談、東京新聞より) と評価しています。

日本母親大会のフィールド

ワークで学習見学会ひらかれる

ビキニ事件・第五福竜丸の被災による水爆実験の影響が全国に広がり、全国の女性が水爆実験中止、原水爆反対で立ち上がったことが契機となって始まった日本母親大会 59 回大会が東京で開催されました。8月25日には分科会の一つとして第五福竜丸展示館を訪れ、45 人が見学し学芸員から事件の概要と久保山さんに寄せられた手紙のワークショップを受け、熱心に見学しました。

〈検定〉はじめ始めました！

夏休みの自由研究テーマに第五福竜丸を選ぶ小学生でにぎわった夏でした。休日のお父さんといっしょの小学生も多く、この夏から始めた「福竜丸検定初級編」にチャレンジしてもらいま

した。5問中3問正解で合格です。

船をじっくり見たり、展示パネルを読むとわかるよ！と声をかけると、みんな元気に駆け出して「わかった～」とカウンターにもどってきます。学齢前の小さな子たちも、お兄ちゃんお姉ちゃんたちに手伝ってもらって記入し、検定証をもらってうれしそうです。自分で中級問題を作るチャレンジャーも出現しました。

* *

8月18日の東京新聞サンデー版「世



界と日本 大図解シリーズ」の「語り部特集」で、証言が聞ける施設として、第五福竜丸展示館が紹介されました。継承の取り組みの例で、市田真理学芸員が「語りつぎ部 (べ)」として登場しています。

第五福竜丸を 300 枚に撮る

ダゲレオタイプの写真家・新井卓さんが、第五福竜丸船体を 8月19日か

ら9月初旬まで 300 枚の銀板に撮影しました。新井さんは、2011 年、三軒茶屋のアートスペース KEN でおこなわれた「EXPOSE 死の灰」シリーズのために第五福竜丸展示館の「死の灰」を撮影。東日本大震災後の被災地や福島に足を運び取材してきました。2012 年には第五福竜丸の船体の習作と大石又七さんを撮影し、今回は 1 片 5 センチ四方の銀板 300 ピースに船体のほぼ全容を納める構想で作業を重ねています。作品は 9 月 21 日から開催される森美術館での展覧会にトリニティサイト、大石さん、福島などの作品と合わせて出展されます。アート展「六本木クロッシング 2013—日本現代アートのいまを問う」は 2014 年 1 月 13 日まで。



ダゲレオ写真の撮影の様

9 月 23 日久保山忌の催し案内

◇久保山忌句会

- ・午前 11 時、久保山碑献花、吟行
- ・午後 1 時より 句会 (会場・スポーツ文化館研修室)

◇平和を語る第五福竜丸の集い

- ・午前 10 時 30 分から午後 3 時
- ・朗読 (「ここが家だ」「原爆難民の詩」ほか)、紙芝居 (「あかふん先生」「花咲き山」)、語り (「山形弁で語る民話」ほか)、演奏 (ガムラン音楽など)、演芸 (南京玉すだれ)、第五福竜丸ボランティアの会は「ばらの祈り～久保山すずさんの道」を朗読します。

◇東京原水協一第 27 回第五福竜丸のつどい

- ・第 1 部＝午後 1 時より展示館見学会
- ・第 2 部＝午後 2 時半より学習会「ビキニ事件 60 年を前に」安田和也展示館主任学芸員 (会場・スポーツ文化館マルチホール)

◇マグロ塚の会「9・23 平和の集い」～大石さんを囲んで

- ・午後 2 時より 4 時
- ・スポーツ文化館研修室